

平成25年度 指導改善プラン

千代田区立麴町小学校

1 達成度調査及び児童の学習状況から見た成果と課題(4・5・6年) ○:成果 ◆:課題

	4年	5年	6年
国語	<p>○ 全体的に達成率が高く、よく理解できている。特に話す力・聞く力については定着度が高い。また、前回同一学年と比較すると、読む力の達成率が高くなっている。</p> <p>◆ 全体的に見て、書く力の達成率が低く、60%を下回っている。また、前回同一学年と比較すると、音声言語の達成率がやや低くなっている。</p>	<p>○ 全体的に達成率が高く、よく理解できている。4年時と比較しても、特に文章読解力の正答率が高くなっている。</p> <p>◆ 全体的に言語事項の領域と、書く力をみる設問において、正答率がやや低くなっている。</p>	<p>○ 全ての観点において、達成率が目標値を大きく上回っている。特に言語事項に関しては高い達成率を示している。</p> <p>◆ 単元別にみると、説明的文章の読解力に比べ、文学的文章の読解力が低い。また、基礎的な学力と比べ、応用問題に対応する力が弱い。</p>
社会	<p>○ 全体的に達成率は高い。特に社会的な思考・判断・表現において定着率が高い。また、前回同一学年と比較すると、応用面の達成率が高くなっている。</p> <p>◆ 全体的に見て、観察・資料の活用の技能において、達成率が低くなっている。</p>	<p>○ 全体的に達成率は高い。特に、生活的内容において達成率が高くなっている。</p> <p>◆ 地図の等高線や記号から情報を読み取る単元において、やや達成率が低くなっている。</p>	<p>○ 地理的内容も公民的内容もよく理解しており、高い達成率を示している。レーダーチャートを見ても、前回の七角形を大きく上回るグラフとなった。観点別に見ても、思考・判断、技能、知識・理解ともに良い結果である。</p> <p>◆ 活用力に関しては定着している児童としていない児童と二極化している傾向がある。</p>
算数	<p>○ 全体的に達成率が高い。観点別に見ても、どれも差がなく、達成率はほぼ80%台である。前回同一学年と比較すると、応用面での達成率が若干高くなっている。</p> <p>◆ 全体的に見て、上位層の児童と下位層の児童とで数学的な考え方において、定着率に差が大きい。また、前回同一学年と比較すると、「数と計算」において、達成率が低くなっている。</p>	<p>○ ほとんどの項目において達成率が高い。特に「数と計算」の領域における達成率が高くなっている。</p> <p>◆ 数学的な考え方の観点で、達成率がやや低くなっている。</p>	<p>○ 観点別に見ると、知識・理解、技能の達成率が高く、領域別に見ると「量と測定」、「図形」の達成率が高い。</p> <p>◆ 全体的に数学的な考え方の達成率が低く、定着できていない児童の割合もやや高い。</p> <p>◆ 「小数の計算」、「単位量あたりの大きさ」、「立体」の単元では達成率が低くなっている。</p>
理科	<p>○ ほとんどの項目において、達成率が高い。特に観察・実験の技能において定着率が高い。</p> <p>◆ 観点別にみると、どれも達成率が、80%を上回っているが、科学的な思考・表現の定着率が一番低い結果となっている。正答率でみると、「物の重さ」で低い結果となっている。</p>	<p>○ すべての項目において達成率が高い。前回同一学年と比較しても、大幅に達成率が上がっている。</p> <p>◆ 他の項目と比較すると、観察・実験の技能の観点で、達成率がやや低くなっている。</p>	<p>○ 科学的な思考・表現、技能、知識・理解ともに概ね良く身に付いている。前回の結果と比べ、レーダーチャートに大きな広がりが見られた。</p> <p>◆ 活用力に関しては、正答率が50%を下回っている。前回の正答率と比べても30%近く下回っていることから、活用力の低下が顕著である。</p>

2 調査以外の教科についての成果と課題(4・5・6年)

体育…新体力テストの結果や日常の体育の様子から、全学年において運動の基礎となる体力の向上を図るとともに、できる・伸びる喜びを実感できるように系統的な指導の充実を図る。

総合的な学習の時間…自ら課題を見つけ、主体的に活動に取り組む力を伸ばすことができた。年間指導計画の見直しを行ったが、今後もそれぞれの学年に応じて柔軟に取り組んでいく必要がある。

3 調査以外の学年の成果と課題及び改善の取り組み(1・2・3年) ○:成果 ◆:課題、改善の取り組み

	1 年	2 年	3 年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平仮名の練習に熱心に取り組んでいる。しりとりや言葉集めを楽しみながら、正しく書けるようになってきた。 ○ 音読を徹底するために、家庭での音読練習に取り組み、リズムやまとまりを意識して読むことができるようになってきた。 ◆ 助詞「は」「を」「へ」を間違えたり、拗音や促音を正しく書けなかったりしている児童がいるので、継続的に指導をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読や読書に意欲的に取り組んだり、文章をきちんと読み取ったりしながら、内容を理解することができた。 ○ 活動に聴写や視写を積極的に取り入れたことで、聞く力が少しずつ身につけてきている。 ◆ 漢字を正確に書くことが十分でない。漢字練習等を繰り返し指導し、2年生として押さえるべき漢字を確実に定着させる。 ◆ 発表の声小さい児童がいる。聞き手を意識した発表の仕方の指導に力を入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 音読や読書に意欲的に取り組んだり、文章をきちんと読み取ったりしながら、内容を理解することができた。 ○ グループでの活動を中心に話し合い活動で、お互いの考えを伝え合うことができた。 ◆ 漢字を正確に書く力が十分とは言えない。小テスト等で繰り返し指導するとともに、個別に練習計画を立てながら確実に定着できるようにする。 ◆ 自分の考えを書く力を定着させる必要がある。楽しく書く活動を工夫しながら、文を書く機会を増やして慣れさせる。
社会	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学区域の探検や区内巡りを通して、地図を活用しながら方位や土地の様子について理解することができた。 ◆ 調べたことをまとめたり、調べたことから考えを深めたりする経験が足りない。調べ学習を重視し、指導を工夫する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ○ 具体物や算数ブロックを操作することで、足し算や引き算の意味を理解することができた。 ○ ドリルや計算カードを活用したことで、10までの計算を正確にできるようになった。 ◆ 式から場面を表す問題文を作ることが難しい児童が多くいるので、式を読むという活動を意識させることを通して、理解を深めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日々の計算練習により、繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算をほとんどの児童ができるようになった。筆算の仕方を分かりやすく説明することができ、思考力が身に付いてきている。 ◆ 長さ、水のかさ等の量感が身に付いていない児童がいるので、具体的な操作活動を多く取り入れ定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ かけ算やわり算などの計算については、ほとんどの児童が正しく処理できている。 ○ 友達の考え方を聞いて、いろいろな解決方法があることを知って、思考力を深めることができた。 ◆ 時間を計算することや円を正しく描くことが不十分な児童がいるので、個別指導の充実を図る。
理科	/	/	<ul style="list-style-type: none"> ○ 身の回りの生き物について観察したことをカードに丁寧に記録し、意欲的に活動する中で、理解を深めることができた。 ◆ 学習して理解したことから課題を見つけることが不十分な児童がいるので、主体的に課題を見つける指導を工夫する。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校外学習などの体験活動からの気づきを、絵や言葉できちんと表現することができた。 ○ 一人一鉢のアサガオを育てることを通して、継続的な観察活動ができたり、成長の様子に関心をもって育てたりすることができた。 ◆ 身近な人たちとのかかわり方やかかわりを通しての気づきが苦手な子がいるので、かかわり合う体験の機会を増やしたり、かかわりの中から分かる具体的な気づきについてアドバイスしたりしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一鉢のミニトマトを育てることに興味をもち、継続的に観察することができた。国語の「かんさつ名人になろう」での学習を生かし、観察文は主語をしっかり書くことや、細かい部分までよく見て絵を描くことを気をつけられるようになってきた。 ◆ 児童の主体的な活動へ導くために、常に児童の思いに寄り添った学習計画を考える。 	/

4 改善の方針

- ◎ 児童一人一人が確かな学力を身に付けられるように、算数において習熟度別少人数指導や各教科でのT T指導による授業等の充実を図る。
- ◎ 問題解決的な学習や体験的な学習の充実をさらに図り、身に付けた知識・技能を活用する学習活動を推進する。
- ◎ 学習の中で児童が達成感や充実感を味わえるような支援を工夫し、学ぶ意欲の向上を図る。

5 学校としての改善の取り組み(4・5・6年)

	4年	5年	6年
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書くことについて、学習時間を見直すとともに、学習展開の工夫を行う。 ・ 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつくったり、物語を書いたりする活動時間を確保する。 ・ 収集した資料を効果的に使い、説明する文章などを書く活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新出漢字の学習において、部首や成り立ちの指導から丁寧に取り組む。 ・ 授業で、100文字程度の短い作文を書く時間を設け、文章を書くことを習慣づける。 ・ 語彙力を身に付けるため、わからない言葉を辞書で調べるだけでなく、適宜活用するよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要旨をまとめる力、主題を捉える力を身に付けるため、文章構成や場面構成を理解する指導の充実を図る。特に、文学的文章の読み取りが弱いことから、情景描写や登場人物の言動から心情を読み取る学習の充実を図る。 ・ 初読の文章を的確に理解できるよう、時には教科書以外の教材の使用も検討する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的な思考力・判断力・表現力が育つように、教材開発と指導法の工夫を行う。 ・ 地図や各基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考えたり、調べたことを発表したりする時間を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産業分野の学習において、地図帳を活用する場面を多くする。 ・ 資料から読み取った情報を自分なりにまとめる作業を授業に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフやデータから得られる情報をもとに、自分の考えをまとめる時間を設ける。 ・ 考えたことを共有する時間を作り、自他の考えを比較しながら自分の考えを広げたり深めたりする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学的な考え方について、習熟度に応じた指導を図る。 ・ 児童が新たな考え方を見出そうとしたり、具体的な課題を解決したりするなど、目的意識をもって主体的に取り組める学習を行う。 ・ 具体物を用いる活動を重視する。 ・ 数と計算について、個に応じた指導を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章で表された数量関係を、数直線などに表してから立式する活動を重視する。 ・ 導入を工夫し、既習事項を生かして新しい問題を解こうとする意欲を喚起する。 ・ 立式や公式を導き出す過程を表現する活動を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定着率の低い単元に関して、継続的に復習する。 ・ 個別対応で弱点の克服を図る。 ・ 抽象的な概念を具体的に思考できるように数直線や図に表し、視覚的に整理することを繰り返し指導し、定着を図る。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学的な思考・表現が育つように、学習時間の見直しをするとともに、学習展開の工夫を行う。また、教材開発と指導法の工夫を図る。 ・ 事物・現象の変化とその要因とを関係付けながら調べられる時間を確保する。 ・ 自然から問題を見出す学習活動を重視する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題解決の流れの、より一層の定着を図り、自発的な問題の発見と解決を促す。 ・ 自然事象や実験器具などに触れる機会を意図的に設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識の定着に留まらず、活用力を鍛えるため、学習内容を実際の生活場面に置き換えて考えたり、経験と結び付けながら学習したりする。

6 教員の改善の取り組み

- 年間指導計画、評価計画に基づき計画的に指導を行い、授業の充実を図る。
- 個に応じた指導を行うために、習熟度別少人数指導やT T指導による授業を計画的に行い、児童一人一人に確かな学力が身に付くように指導法を工夫する。
- 校内研究に関連して、体育科においては、できる・伸びる 喜びを実感する児童を育成することをめざし、系統的な指導の充実を図り、基礎的な身体能力の向上を図る。

7 検証方法

- 学期末には、各教科の単元ごとの達成度を調査し、児童の学習状況を把握し、学習の成果を考察する。
- 児童のノート・ワークシートの記録から児童一人一人の学習状況を把握し、学習の成果を考察する。
- 体育科においては、実態調査を実施し、学習の成果を考察する。